

吉野川市



吉野川市

鴨島町・川島町・山川町・美郷村が一つになって誕生した吉野川市は、徳島県北部のほぼ中央、吉野川の南岸に広がるまちです。北には吉野川を挟んで阿波市があり、5本の橋と2本の沈下橋で結ばれているため、人や車の行き来がとても盛んです。吉野川市から徳島市までは約20kmとアクセスも良く、市全体が徳島都市圏の一角を担っています。

国の天然記念物に指定されている「美郷のホテルおよびその発生地」や「船窪のオンツツジ群落」など地域資源に恵まれた魅力的な観光スポットがあり、また、全国初の梅酒特区で知られる美郷地区の「梅酒」は代表的な特産品として知られます。

2020年には、JR鴨島駅周辺に市民の文化交流や様々なイベントの開催場所として利用される多目的施設「吉野川市民プラザ」が誕生し、地域のコミュニティ拠点として多くの人々に親しまれています。そんな吉野川市は、映画のロケ地としても魅力を発揮しています。自然豊かな風景や、人々の温かさにはぜひ触れてみてください。

古民家工房 kotokoto

立が移住する家。



立が歩く街並み。銀座商店街をはじめ、歴史を感じさせる建物や稲荷通りが連なり、まるでタイムスリップしたかのような街並みが広がります。

稲荷通り

劇中でも重要な場面に登場する、趣あふれる通りです。映画の世界に入り込んだような気分を味わえます。



川島潜水橋

立とお遍路中の神野がすれ違う橋。地元の人々にとって欠かせない橋で、譲り合いを大切にしながらから車やお遍路さんが行き交います。



JR鴨島駅

立が降りる駅。



鴨島駅前中央通り

かもじま阿波おどりが行われる通り。



鳥新(中町通り)

立が訪れる老舗の焼鳥屋。

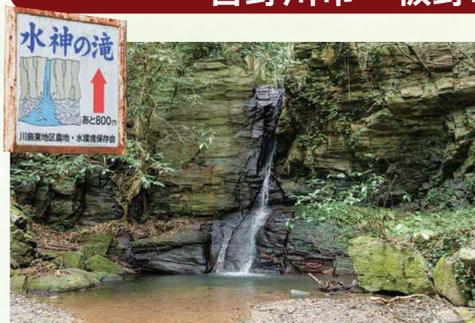


HOSTEL OE

立が宿泊するホステル。



吉野川市・板野町の自然豊かな場所



水神の滝

立とカズにとって大切な場所、それが、吉野川市川島町にある上桜公園の南東に広がる山裾の滝です。滝の上方には二の滝、三の滝が連なり、豊かな自然の景観を楽しめます。季節が移ろうごとに、野生のツツジやツバキが咲き誇り、訪れる人の目を楽しませてくれます。



大日寺

四国遍路の歴史が息づく町。比較的小さな町域の中に、なんと四国八十八箇所霊場の寺院が3つもあります。第三番札所「金泉寺」、第四番札所「大日寺」、そして第五番札所「地蔵寺」。いずれも約1200年の歴史を誇り、長い時を超えて巡礼者を迎え入れてきました。

道の駅いたの

登場人物たちや板野町の食材が集う場所。立が出会いのひとときを過ごすのは、季節ごとに表情を変える板野町と徳島の特産物が揃う直売所です。新鮮な野菜や果物、地域の味覚に触れながら、地元の人々との温かい交流も楽しめます。



板野町

昭和30年、板西町・松坂村・栄村の1町2村が合併し、古くからの地名「板野」を受け継いで板野町が誕生しました。北に阿讃山脈、南に吉野川平野を望む36.22kmの町域は、米や野菜、果樹などの農業を基盤としつつ、県北東部の文化・教育の拠点としても大きな役割を担っています。

肥沃な吉野川の沖積土壌に支えられた農業は、洋にんじんやレンコン、しろうりなどの生産で知られています。特に春にんじんは町の特産品であり、全国でもトップクラスの収穫量を誇ります。まさに県内農業をリードする存在です。

また、町内にある大型公園「あすたむらんど徳島」は、子ども連れにも大人気のスポット。遊びながら学べる「徳島木のおもちゃ美術館」や「徳島県子ども科学館」、吉野川をテーマにした展示「吉野川めぐり」など、見どころがいっぱいです。広々とした芝生エリアでは、板野町ならではの食材を使ったお弁当を広げて、家族でのんびりピクニックを楽しむのもおすすめです。

平瀬農園

立がお手伝いするレンコン畑。



落合ブルーベリー園

収穫したレンコンや郷土料理を囲む食卓。



板野町



立が歩く街並み。銀座商店街をはじめ、歴史を感じさせる建物や稲荷通りが連なり、まるでタイムスリップしたかのような街並みが広がります。

稲荷通り

劇中でも重要な場面に登場する、趣あふれる通りです。映画の世界に入り込んだような気分を味わえます。



川島潜水橋

立とお遍路中の神野がすれ違う橋。地元の人々にとって欠かせない橋で、譲り合いを大切にしながらから車やお遍路さんが行き交います。



JR鴨島駅

立が降りる駅。



鴨島駅前中央通り

かもじま阿波おどりが行われる通り。



鳥新(中町通り)

立が訪れる老舗の焼鳥屋。

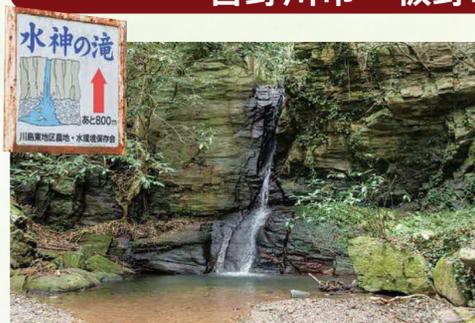


HOSTEL OE

立が宿泊するホステル。



吉野川市・板野町の自然豊かな場所



水神の滝

立とカズにとって大切な場所、それが、吉野川市川島町にある上桜公園の南東に広がる山裾の滝です。滝の上方には二の滝、三の滝が連なり、豊かな自然の景観を楽しめます。季節が移ろうごとに、野生のツツジやツバキが咲き誇り、訪れる人の目を楽しませてくれます。



大日寺

四国遍路の歴史が息づく町。比較的小さな町域の中に、なんと四国八十八箇所霊場の寺院が3つもあります。第三番札所「金泉寺」、第四番札所「大日寺」、そして第五番札所「地蔵寺」。いずれも約1200年の歴史を誇り、長い時を超えて巡礼者を迎え入れてきました。

道の駅いたの

登場人物たちや板野町の食材が集う場所。立が出会いのひとときを過ごすのは、季節ごとに表情を変える板野町と徳島の特産物が揃う直売所です。新鮮な野菜や果物、地域の味覚に触れながら、地元の人々との温かい交流も楽しめます。



板野町

昭和30年、板西町・松坂村・栄村の1町2村が合併し、古くからの地名「板野」を受け継いで板野町が誕生しました。北に阿讃山脈、南に吉野川平野を望む36.22kmの町域は、米や野菜、果樹などの農業を基盤としつつ、県北東部の文化・教育の拠点としても大きな役割を担っています。

肥沃な吉野川の沖積土壌に支えられた農業は、洋にんじんやレンコン、しろうりなどの生産で知られています。特に春にんじんは町の特産品であり、全国でもトップクラスの収穫量を誇ります。まさに県内農業をリードする存在です。

また、町内にある大型公園「あすたむらんど徳島」は、子ども連れにも大人気のスポット。遊びながら学べる「徳島木のおもちゃ美術館」や「徳島県子ども科学館」、吉野川をテーマにした展示「吉野川めぐり」など、見どころがいっぱいです。広々とした芝生エリアでは、板野町ならではの食材を使ったお弁当を広げて、家族でのんびりピクニックを楽しむのもおすすめです。

平瀬農園

立がお手伝いするレンコン畑。



落合ブルーベリー園

収穫したレンコンや郷土料理を囲む食卓。



板野町



映画 道草キッチン

ロケ地マップ



TAKE FREE



道草キッチン

中江 有里

金井 浩人 村上 穂乃佳 本間 淳志 ファム・ティ・フォン・タオ
荒木 知佳 芝 博文 仁科 貴
大塚 まさじ / 今 陽子

エンディング曲
「月の光」演奏：石井 琢磨

脚本：白羽 弥仁・知 愛

監督：白羽 弥仁 (映画「フィリピン・パプアの社会学」)

第3回
ナンパ・アジア映画祭
正式招待作品



トコナガ
白田 優の 撮影
こぼれ話

映画「道草キッチン」に決って欠かせない地域の方々との出会いは、劇中に生きる立たちと同じように、僕らにとっても大切な出会いでした。本誌ではご協力いただいた地域の皆様のお声をうかがいました。ぜひお楽しみください！

HOSTEL OE



劇中に登場するホステル。映画の物語に深く関わる場所で、単なるロケ地にとどまらず、登場人物や物語のモデルにもなっています。

「白羽監督やプロデューサーの向田さんが何度も訪れたように、HOSTEL OEには県外や海外からも多くの人々が集まります。2階のコワーキングスペースでは、お遍路さんや海外からの訪問者が語り、時には地元の子もたちが勉強する場としても自然に交流が生まれます。異文化を優しく受け入れるこの場所を通じて、阿波踊りや地域イベントなども展開されていくことが期待されています」まさに、映画のタイトルのように「道草」のひとつを楽しめるスポットです。

また、ベトナム出身のご夫人を通じて、訪れる人に自国の文化や味覚を紹介することも喜びのひとつ。「日本に来て働くベトナムの方々や国際結婚の増加に触れ、吉野川市ではこれまでベトナムランタン祭なども開催してきました」映画をきっかけに、地域の人々と海外からの訪問者がさらに交流し、国際的なつながりを深めていく場として、HOSTEL OEはこれからも大切にされていきます。

〒776-0010 徳島県吉野川市鴨島町鴨島字神島 485 番地 4



萬川 爽 / 和歌山県和歌山市出身。元吉野川市地域おこし協力隊。映像を通して特産品のブランディングやプロモーションに取り組み萬川 企画代表。鴨島駅近の宿泊施設「HOSTEL OE」を管理・運営。



鳥新(中町通り)



脚本取材時、白羽監督が初めて萬川さんご家族と訪れたお店です。店の味と温かい雰囲気は、映画制作の大きなきっかけとなりました。

昔ながらの店内で女将さんが焼き場に立ち、旦那さんの思いを受け継いでいます。ロケ交渉時は一度断られましたが、当時高校3年生のお孫さんの後押しで撮影が実現。出演者への焼き方指導も行われ、無事に撮影を終えました。撮影から1年後、女将さんは「いつか、私がおらんくなくても映画の中でお店が残ってくれる。カタチに残る。それもいいな、と思った」と微笑みながら、今日も変わらず焼き鳥を焼いています。



〒776-0010 徳島県吉野川市鴨島町鴨島 454 番地 19



長楽荘(旧富本家住宅)



これから新たな形で残る洋館は、立の人生の再出発と重なる存在として、私たちに温かいご縁をつないでくれました。

水色の外観が目引く洋館は、改装中のタイミングでロケ地として相談させていただきました。持ち主の方は「この洋館をのこしたい」と新たな人生プランを描かれており、何度も相談を重ねた末、数か月には貴重なロケーションでの撮影を実現。その後の試写上映後に再会した際には、「私が気に入った場所を気に入っていただけ嬉しい。この家は私の人生において“大切なご縁”をもたらしてくれました」と語っていただきました。



※藍で栄えた山川町諏訪の豪農富本家から富本市郎氏が分家し、大正2年に特定郵便局の局舎を建て局長となり、昭和6年に西洋造りの主屋、同8年に裏座敷(長楽荘)を建てる。令和7年、日本遺産認定の「藍のふるさと阿波〜日本中を染め上げた至高の青を訪ねて〜」を構成する文化財に追加認定。
〒779-3402 吉野川市山川町 西久保 1 番地 1

かもじま阿波おどり



レトロな雰囲気が残る商店街で溢れる鴨島ならではの心地よい熱気を体感下さい！

鴨島駅前中央通り商店街では地元有志による“一夜だけのかもじま阿波おどり”が開催されており、地元連「舞絆踊連」や「もっこ連」をはじめ、有名連も参加し、まちに熱気と笑顔が広がっています。2024年には、映画の劇中用に実際の阿波おどりの風景を撮影しました。その年の10月には、実行委員や地域の方々との協力のもと、商店街を封鎖して170名以上のエキストラと共に撮影を実施。本番さながらの熱気が、映画の中で息づいています。



道の駅いたの



旅の食材をぜひお楽しみ下さい！

「活き活きと魅力に満ちた田園都市」の実現を目指し、令和3年4月1日に四国で88カ所目の道の駅として誕生した、道の駅です。映画撮影では外観にキッチンカーをセットし、ブルーベリーやすだちのオリジナルジュースを考案。店内も季節に合わせたポップで彩られ、ポップ作成は店員の平岡さんが担当しました。劇中に登場するちびなすや半田素麺などの商品も道の駅のものを使用し、カズの商品に貼る値段シールも作成していただくなど、作品の世界観を支えています。



〒779-0102 徳島県板野郡板野町川端中手崎 39 番地 5

平岡さん

古民家工房 kotokoto



季節ごとのお手製パンが作れる古民家の教室です。教室を開く谷さんに、当時の様子を伺うこともできました。築100年の古民家は映画の世界観にぴったりの温かい空間で、数日間撮影が進められました。

「最初は驚きましたが、協力して本当に良かったです」と谷さん。若いスタッフが一生懸命に動く現場を見て、徳島の「お接待文化」も手伝い、自然と応援したくなったそうです。早朝には谷さんお手製のシフォンケーキが差し入れされ、助監督の淹れたベトナムコーヒートともに楽しみました。「住めば住むほどこの地域の魅力を感じています。映画に美しく映った山川町の風景で、また地元が好きになりました。」と語っています。



〒779-3407 徳島県吉野川市山川町季邦 160 番地

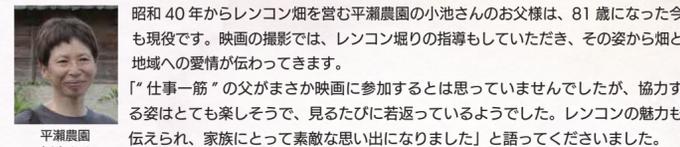
※パン教室は少人数制・要予約

らーんず ita 農 平瀬農園 & 落合ブルーベリー園

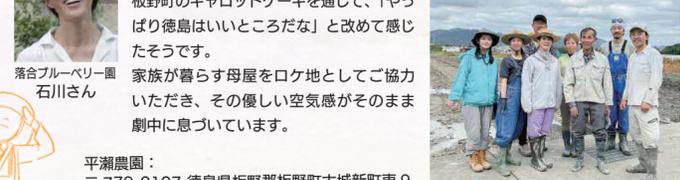


5人の女性農家が集まり、おいしい魅力をお届けする「らーんず ita 農」。

映画「道草キッチン」には、板野町の食材を使った徳島の郷土料理が登場します。脚本には、地元の生産者の声を取り入れるため、私たちは「らーんず ita 農」の皆さんと出会いました。皆さんの活動は、劇中に登場する女性農家のモデルとなっています。



昭和40年からレンコン畑を営む平瀬農園の小池さんのお父様は、81歳になった今も現役です。映画の撮影では、レンコン畑の指導もしていただき、その姿から畑と地域への愛情が伝わってきます。「『仕事一筋』の父がまさか映画に参加するとは思っていませんでしたが、協力する姿はとても楽しそうで、見るたびに若返っているようでした。レンコンの魅力も伝えられ、家族にとって素敵な思い出になりました」と語っていただきました。



平瀬農園：〒779-0107 徳島県板野郡板野町古城新町東 9

稲荷通り



懐かしい味を振り返る空間。

鴨島駅前商店街に面した道を赤い鳥居くぐると、昭和レトロな空間が広がります。その中にある「ホームラン焼きそばズギドン」は、地元の子どもや常連客に愛されるお店です。撮影当日には吉野川市在住のベトナム人や地元の子どもたちも参加し、印象的なシーンが生まれました。



〒779-3407 吉野川市鴨島町鴨島字神島 495 番地 1 裏鴨島稲荷通り

ビジネスホテルロードサイド



ロケを支えた憩いの場。

宿泊だけでなく、劇中に登場する美術品や料理の仕込みの多くがロードサイドで行われ、撮影現場から戻るとほっと安心できる場所となっています。支配人のお母さんが作る朝食は絶品で、身近で応援して下さったお母さんは「普段では経験しない映画の世界に協力でき、とても楽しい時間でした。制作の裏側を見ていたので、映画を観た時は興奮しました」と語っていただきました。



プロデューサーと記念写真

〒776-0003 徳島県吉野川市鴨島町内原 160 番地 3